

宮城県石巻市・震災復興学習支援 レポートNo.50

石巻 出前寺子屋「検定合格講座」

◆活動報告その50 [2013年8月11日]

第50回寺子屋、活動が進化し、新たな試みも行われる

昨日(8月10日)の仙台、最高気温は34℃であった。本日は午後6時になっても31℃が表示され、東北も暑い。猛暑がお盆休みと共に始まり、人々の夏移動も開始され、この日のJR切符の入手は容易ではなかった。

しかし、夏休みのほぼ真中で、東日本大震災発生からはちょうど2年5カ月が経過した本日(8月11日)は、休みを利用した現職教員2名の方のボランティア参加もあり、スタッフが充実して中身も濃い第50回出前寺子屋を開催することができた。新たな試みが行われ、活動が進化し続けている実感を持たせた記念回を、時の流れに沿って以下に報告していきたい。

午前7時、松戸の自塾出発から小川大輔先生(千葉県内の中学で国語を指導)が同行し、午前10時に仙台駅前では村山達也先生(東北大学准教授)が合流をしてくれた。お二人とも初期の寺子屋活動に複数回参加をされていたが、1年を超えるブランクがあり、それを経て今回再登板をされたのである。このお二人によるプロの授業が本日、中学生と高校生に提供されたのである。これらの授業は、事前に中高生全員に学習の要望を私(谷村和枝)が聞き取り、実現の可能性のあるものから実施した試みであった。

午後1時30分開始の前半学習では、中学1年生と3年生の国語文法が小川先生によって個別指導され、英検準2級のグループ学習が村山先生から指導をされた。前半の国語文法は初めての学習領域であっても個別指導形式のため目新しさはなく、英検準2級も今までの流れに沿ったものであった。午後2時開始の漢検学習もそうであり、特段の変化はなかった。しかし、紙芝居も行われた全体集会后は中高生の要望に沿った新たな試みが2つ実施され、寺子屋の進化が垣間見えた。

1つ目のチャレンジ授業は、小川先生が指導をする中学2年生の国語文法講座であった。寺子屋の卒業生でこの春、国文科の大学生になったHMさんが授業見学をする中、6人の中学2年生は素晴らしい集中力を示した。子どもたちが望んでいる授業であることが感じ取れた。そして、「皆、素直だ。楽しい授業だった」と小川先生に言わしめたのである。



小川先生による中2の国語文法授業

2つ目のチャレンジ授業は、高校数学質問コーナーというものであった。2人の高校1年生は、いつも学校の宿題を持参し、自習時間に数学の問題等を解いていた。聞きたいことがあるな、解けない問題を質問したいのだろう、と私は何度も感じていた。村山先生の参加を受け、高校数学の質問コーナーを設ける旨、前日に電話をすると、2人は学校の夏休み数学宿題を持参した。1時間だけの質問コーナーではとても足りなかった様子で、時間終了後も村山先生からアドバイスを受けていた。2つの試みは成功であった。

3つ目の試みは、かねてからの願いが実現した満足感と異文化コミュニケーションの難しさという課題の両方を私にもたらした。教材運搬のスタッフとして松戸から孫の田中千都が同行し、英検指導スタッフとして東北大院生の高橋はるかさんが仙台で合流するので、木製の大きな紙芝居舞台を持参し、自前の紙芝居を実演する決心を私はしたのである。演目は落語に題材をとった「七どぎつね」と、ニューヨークでの実話がベースとなった「ねこのおかあさん」である。終わると大きな拍手が沸き起こった。良かったと感じた瞬間、1つの長机の異様さに驚きを感じた。前回のレポートで紹介した「アジアの花嫁」3人が席に着く長机だけが他とは違う空気を漂わせていた。他の受講者が学習する手を止め、目も体も紙芝居の方向に向けているのに、この机の人たちだけは黙々と下を向き漢字学習を続けていた。何故異様に映ったのか、3つの理由が頭に浮かんだ。①母国に紙芝居文化が無いから



和枝先生による紙芝居の実演パフォーマンス

理解できない、②受講者に郵送される葉書の文面を見ても内容が理解できていないから、本日のイベントが解らない、③その場の雰囲気と合わせる協調性が母国の文化風土では必要とされていない、である。他

石巻 出前寺子屋 「検定合格講座」の仕組み

活動期間：第Ⅰ期 2011年8月16日～2012年2月4日
 第Ⅱ期 2012年2月19日～6月17日
 第Ⅲ期 2012年6月16日～11月10日
 第Ⅳ期 2012年11月24日～2013年2月23日
 第Ⅴ期 2013年3月10日～6月8日
 第Ⅵ期 2013年6月16日～11月9日

- ①スクーリングの実績と予定(漢検・英検学習)
 2011年8月16日、9月4日、18日、10月2日、16日、11月5日、20日、12月11日、24日、2012年1月8日、22日、2月4日、19日、3月4日、18日、4月1日、15日、29日、5月13日、27日、6月2日、9日、17日、7月1日、22日、8月5日、26日、9月9日、23日、10月7日、13日、21日、11月10日、25日、12月9日、23日、2013年1月13日、26日、2月9日、24日、3月10日、24日、4月7日、21日、5月12日、6月1日、16日、7月7日、21日、8月12日、9月1日、15日
- ②会場 仮設開成ささえあい拠点センター集会所
- ③検定受験(第Ⅵ期)
 平成25年度第2回英検 2013年10月12日
 平成25年度第2回漢検 2013年11月9日
- ④受講対象者 仮設住宅、借上げ住宅等に居住する被災市民
- ⑤受講者特典 教材費・スクーリング受講費・検定料の全額が無料

のスタッフも、この3人の異様さを見ていた。話を聞く必要性を感じて、後半の学習が始まると、私は3人から聞き取りを行った。「勉強したいです。もっと本が欲しいです」と言った。生活上、日本式に読み書きする漢字は覚えたいが、検定の「試験は受けません」とも語った。日本人被災者に対するものとは違った支援の必要と、支援者側からのより多くのコミュニケーション努力の必要を感じた。

こうして午後4時10分に第50回寺子屋は終了した。帰路、佐久間先生も同乗して、門脇小学校と「がんばろう石巻」の看板にタクシーで立寄った。

皆で「6.9メートルの津波」の表示を見上げた。そして、30℃を越える暑さの中、スタッフもそれぞれの家路についた。本日の参加者は漢検講座18人、英検講座12人(重複あり)、スタッフ6人であった。次回の寺子屋は9月1日(日)に開催を予定している。



活動後、門脇南浜地区を訪ねる。大看板の前で左から高橋、田中、小川、谷村、村山、佐久間

報告：谷村和枝

過去5の漢字検定実績・74名受験中合格者59名

2級-13名、準2級-14名、3級-14名、4級-6名、5級-7名、6級-3名、7級-2名 (小中学生21名、一般38名)

英語検定実績・13名受験中合格者12名

準2級-1名、3級-4名(準2・3級とも1.2次完全合格者) 4級-4名、5級-3名 (小中高生9名、一般3名)

ご支援ありがとうございます

当活動は活動参加者個人の負担と、ご援助をいただく皆さんの浄財で運営しています。第Ⅲ期活動からは日本キリスト教協議会・震災対策室および東北ヘルプ(第Ⅱ期から継続)から活動資金支援をいただいています。

主管: AIM学習セミナー(私塾ネット会員・松戸市)
 後援: 全日本私塾教育ネットワーク(略称・私塾ネット)
 支援: 日本キリスト教協議会・震災対策室(JEDRO)